

塾編

# ベテラン塾長が考える 塾業界の今とこれから

3組目に登場いただくのは、株式会社安藤塾 代表取締役 兼 公益社団法人 全国学習塾協会 会長 安藤大作氏、株式会社個別教育舎 代表 紀洲良彦氏、誉田進学塾グループ 代表 清水貫氏、株式会社うすい 代表取締役 柴崎龍吾氏の4名。20年以上という長きに渡り塾経営に携わる4名の塾長は、現在の状況や今後の展望をどのように考えているのか。ざっくばらんに語ってもらった。

## 全国各地に社の拠点は様々

まずは皆様の塾の特徴

を簡単に紹介ください。

**安藤** 三重県で展開している「安藤塾」には偏差値が低い生徒もいて、今の自分を変えたい、もっとよくなりたいと考える子が少なくありません。そのため心の持ちようからアプローチをしているのですが、「どれだけ感動のストーリーを生み出せるか」にこだわっています。

**紀洲** 九州を中心に中四国や東京に出店している「個別教育舎」は、子供の居場所を作りたいと1対1の個別指導からスタートし、受験に特化した少人数のグループ指導もおこなっています。

**清水** 私たちの展開する地域は、千葉県でも皆さんがイメージするよりも田舎で、人口が東京に吸い寄せられる傾向にあります。それにいかに対応するかが課題だと感じています。

また、高校の入試倍率は公立私立共に二極化していますが、定員割れをしている公立がある一方、上位校のなかには2倍超えという高倍率の公立高校もあります。コロナ禍以降は不登校が増加しているので危機感を感じています。不登校は、成績との相関が直接は低く、どの階層でも同じように発生するようです。そもそも、

偏差値45〜55くらいの生徒が多く、勉強を通して自信を持ってもらうことを目指しています。

**清水** 千葉県内に展開している「誉田進学塾グループ」は、中学受験、高校受験、大学受験それぞれ難関校受験を専門としています。校舎は中学受験2校舎、高校受験9校舎、東進衛星予備校8校舎で3事業部体制を敷いています。近年は小中高一貫体制を目指して併設型校舎開校にも力を入れています。

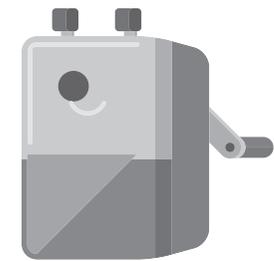
**柴崎** 集団指導からスタートした「うすい塾」は群馬と埼玉に展開しています。現在は個別指導、英会話、東進、高校ライブ授業と広がっています。なかでも力を入れているのが、記

述力や表現力をはじめとした「PISA型学力」の養成に特化したオリジナルブランド「PISA塾」です。昨年はノウハウごと買い受ける形で東京の自由が丘に幼児教室を出店しましたが、こちらもPISA型学力を養うことを目的としています。

## 保護者のニーズはどう変わっているのか

——塾に対する保護者のニーズに変化を感じますか？

**清水** 保護者ニーズにあま



——それぞれの地域の特徴と、生徒ニーズの変化についてお聞かせください。

**安藤** 公立が強い三重県では教員不足により学級崩壊が起きていて、実際、ものすごく勉強に遅れを取っている子がいるなど成績は二極化しています。

## 学級崩壊や不登校など尽きることはない

すでに諦めてしまっている子もいますが、我々としては学力が低い子もウェルカムで、お伝えしたように心の持ちようや自己肯定感を上げるところから取り組んでいます。

また、もう一つの居場所として塾を捉えている生徒たちが多く、自習室には特に活気があります。

**紀洲** 九州各県には少子高齢化により限界集落もありますが、福岡だけは人口が増えています。その福岡の高校では学科のテストをしない「特色化選抜」が今年で6年目を迎え、約100校ある高校のうち6割ほどが特色化選抜を採用しています。

個別教育舎に通う偏差値50以下の生徒のほとんどが特色化選抜で受験をするた

め、色々思うところがありますが、他塾の皆様も「特色化選抜で受験する子にどう向き合うべきか」と悩んでおられるようです。

**清水** 私たちの展開する地域は、千葉県でも皆さんがイメージするよりも田舎で、人口が東京に吸い寄せられる傾向にあります。それにいかに対応するかが課題だと感じています。

また、高校の入試倍率は公立私立共に二極化していますが、定員割れをしている公立がある一方、上位校のなかには2倍超えという高倍率の公立高校もあります。コロナ禍以降は不登校が増加しているので危機感を感じています。不登校は、成績との相関が直接は低く、どの階層でも同じように発生するようです。そもそも、

集団指導の進学塾である私たちとしては、不登校生に對してできることには限界があると考えています。

**柴崎** 公立高校志向が強いというのは群馬県も変わらぬほか、約20年前にできた公立中高一貫校と上位3校以外は、定員割れを起している状況です。また昨年は私立中学が開校しており、うすい塾としては上位校を目指す生徒をターゲットにしています。

一方、埼玉も公立高校志向が強いほか、中学志向も増加しています。それに加えて埼玉は保守的で、内申点が悪いと受験すらできないという特徴があります。そうした体制に一石を投じた、PISA塾に力を入れてきたのですが、公立を目指す子供たちとなかなか

り変化は感じませんが、子供への負荷のかけ方や、個性をどう活かすかといった「学力観」は多様化してきていて、大学入試をゴールにしない層が増えた印象です。

**安藤** 英語4技能やプログラミングのニーズが高まっていること、授業料を気にする家庭が増えていくことなどは皆さんの塾と同じですが、それに加えて「自分の子を見てほしい」という親が増え、個別指導の問い合わせが増加してきました。そうした要望に応えるには生活面でのサポートも不可欠と考えていますので、塾がどれだけ家庭に影響力を発揮できるかも課題だと感じています。



安藤塾の安藤大作代表

時間以上のコーチング研修を受けています。勉強の楽しさを評価いただけるようになったのは、子供との関わりの中で職員のコー

**紀洲** 以前は個別指導を要望する保護者が多かったものの、今は指導形態にこだわっていない印象です。

私たちは定期的にアンケートを取っていますが、入塾後のアンケートでは「子供が楽しかったと帰ってきた」という意見が増えていて、「楽しさ」や「子どもの主体性」を求める親が増えてきていると感じます。個別教育舎では子供たちに自信を持ってもらいたいと、数年前からコーチングの会社と連携して職員が20

チングスキルが活かされた影響と思います。

**柴崎** 保護者のニーズは変わってきているとは思いますが、多様化が進み、それが読みづらくなっていると感じます。

また、我々指導側の情報発信が正しくできていないと感じていますので、それを改善すべく取り組んでいるところです。以前に比べて親同士あるいは夫婦間で進学や勉強の話をしていないようですし、情報収集を諦めている保護者もいま

す。こちらが啓蒙しないと情報の偏りがどんどん進むため、なおさら指導側の発信が必要だと感じています。

**志望動機や自己受容感など社員にも変化が**

——自塾に対する社員の要望に変化を感じますか？

**紀洲** 探究学習の普及の影響もあるかもしれませんが、「教えたい・合格させたい」ではなく「子供の地頭をよくしたい」と入社してくる社員が、ここ数年増えたと感じます。

今までの面接では、個別教育舎で働くことで教科指導スキルをあげたいと話す学生が多く、地頭を鍛えたいという入社動機は聞いたことがありませんでした。

塾に対する見方が変わったなどという印象です。

**柴崎** 今の若い社員たちは成長願望が強く、自分が伸びていないと感じると次の職場を考える傾向にあります。よくなりたいたいという、向上心の強さを感じますね。

**安藤** 感度のいい社員は自分の給料や役職ばかりにこだわらず、「日本は大丈夫か」ということも考えています。仲間とのつながりや自己重要感など、根本的なところに不安があるのでは

ないでしょうか。

仕事を生活のための手段とだけ捉えるのではなく、自分が社会にどう貢献できているかも意識しているようです。そのため安藤塾では「一致団結」「社会貢献」をテーマに掲げています。

**清水** 公教育を含め、先生という職業は働き方がブランクとみられていて、社会的評価が低く、この仕事に魅力を感じる人が減っていると思います。

また誉田進学塾としては働き方改革を先行しておこなってきたつもりですが、在籍が長い社員のほうがそれにうまく順応できていないため、今後は働き方改革が本来に機能するよう調整していきます。

**各塾が見据えている短期的な展望について**

——24年度以降、新たに開講するコースや、カリキュラムの改訂を予定している教科はありますか？

**紀洲** 駿台予備学校が地方の教育をサポートするために開発した「駿台Diverse」を3教室に先行導入し、現在は15教室にまで増やしています。大学受験にどう対応するかは今まで教室長に任せていましたが、今後は九州・中国・四国地方の国立をメインとした大学受験対策に、組織として力を入れていきます。



個別教育舎の紀洲良彦代表

**柴崎** 10年以上前に開講していた小学校1・2年講座を再び立ち上げます。当時の教材を見たところ古くなっているため、それをリニューアルして活用するので、これでやっと小中一貫教育を実現できます。

**安藤** 今までイレギュラーなコースをたくさん作ってきたので、それを廃止してシンプルにしていきたいと思います。

新しく開講するというようり、コース整理に力を注ぐ

イメージです。

また、私たちは心の持ち方にしっかりと取り組んだ子を表彰しているのですが、そのオペレーションを強化し、安藤塾が大切にしていくことを

より明確に打ち出していきます。

**清水** 昨年度までに小学校の英語と連携できるように学校のカリキュラムを変更したほか、公立中高一貫校のコース分けをおこなうなど、マイナー改定を実施しました。それを浸透させていきたいので、今年度は積極的な変更をおこないます。

また、やる気のある社員を登用するなど、今年度は次のフェーズに挑戦できる

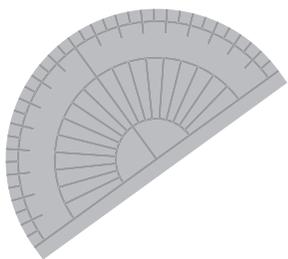
よう組織の体制を固めていく方針です。

**塾長はどんなサービ**

——今、注目している塾向けのコンテンツやサービスについてお聞かせください。

**紀洲** 先ほど申し上げた、駿台Diverseは地方の大学受験生に新しい選択肢を提供できると考えています。

**柴崎** ご紹介したようにPISA塾は自前で開発するなど、差別化をおこなう意味でもオリジナルコンテンツにこだわってきました。社員が見つめてきたサービ



というのが正直なところ  
です。

**安藤** 個人情報の管理ツールが出てくるかどうかに注目しています。というのも、塾が社会的にもう一段上がるには、情報管理を適切にできるようになることも不可欠からです。

お薬手帳や情報銀行のように、総務省は「学びのカルテ」について議論していますが、「そもそも塾は情報管理ができるんでしたっ

け？」という見方をされています。

次のステージに上がるには高いレベルでの個人情報



菅田進学塾グループの清水賢代表

理もマストなので、それが簡単にできるツールが出ればと期待しています。

**清水** コロナ禍直後に「モノグサ」を導入したほか、電子採点への切り替えも実施済みです。アンテナは高く張っているつもりですが、直近でいいコンテンツは見つかっていません。

また安藤さんがおっしゃった個人情報の管理に関しては、悩ましいと感じています。

**各塾が見据えている  
中期的な展望について**

——2030年に向けて立ち上げたい新規事業について、構想をお聞かせください。

**紀洲** 個別教育舎は探究学習を4年ほどおこなっていて、生徒が公募の作文コンクールで評価されるなど成果が出ています。そのため探究学習のような、教科以外の学びを横展開できたらと考えています。

**柴崎** 群馬県の大学進学率は約50%です。そのため他塾とどう戦うかよりも、まずは通塾率を上げることが先



うすいの柴崎龍吾代表

決だと考え、現在は高校に色々な情報を発信しながら「大学進学率を上げましょう」と働きかけています。

公立高校は担当者によりませんが、私立高校はフットワークが軽く、すでに進情報会を実施するなどしています。遠回りのようですが、道だと思っていますので、この1年は大学進学率アップのための情報をオンラインで発信していくつもりです。

そのほか、今後はPIISA型の塾を都内に展開したいと考えています。

**安藤** 「子供たちの幸せ」を因数分解すると、学力アップ以外にも仲間とのつながり、自己重要感、感動、社会貢献など色々あります。メンタルの豊かさを育てることは、安藤塾のアイデンティティとしてすでに取り組んでいることです

が、今後も引き続きそこに力点を置いていきます。  
**清水** 真の意味での英才教育ができるよう、ドメインの拡大ができればと考えているもの、お伝えしたよ

**日本版DBSに対する不安と要望**

うにまずは組織の強化に取り組んでいきます。優れたコンテンツやアイデアが見つかったら小さく実験をおこない、うまくいくと判断すれば強化した組織力で一気に拡大していきたいです。

——今後施行される予定の「日本版DBS」について、「意見をお聞かせください。」

**安藤** 現在、政府内では様々な議論がされており、状況は刻々と変化していま

す。例えば性犯罪歴を20年前まで遡ったほうがよいとの見方もありますし、示談で終わっているケースをどう扱うかという問題もあります。センシティブな情報であるため、どこまで辿るかは一つの争点です。ただどちらにしても、塾の日本版DBSの導入は任意となりそうです。

それから小規模塾をはじめ、個人情報の管理にまだ手が回らない塾もあると思いますが、お伝えしたように個人情報管理の体制を整っていないと、そもそも日本版DBSのステージに上がれなくなってしまう

す。全国学習塾協会としては塾の規模を問わず、社会全体として安心安全な通塾環境を目指すため、DBSの自主宣言ができるマーク

を付与するなど、何らかの策を講じなければと考えています。

**柴崎** 塾業界を代表して安藤さんが頑張っておられるので、色々協力できればと思っています。大変だとは思いますが、ぜひ頑張ってください！

**紀洲** 今回、日本版DBSについて色々勉強したのですが、塾の信頼性を向上させるという意味では大賛成です。しかし、ふと塾経営者として実務を考えた時、認証取得のための時間的、作業的負荷が大きそうだなというのが率直な感想です。

プライバシーマークを取得する時できていないところがたくさんあり、学びになって有り難かったのですが、それなりに労力はかか

りました。そのため「塾としてここまでクリアしておけばよい」という基準があると、取り組みやすいと思います。

**清水** 多様性があるのが民間教育のよいところなので、個人塾だけ報われない、ということは避けてほしいなど安藤さんのお話を聞いて感じました。

また本来、性犯罪に関しては各塾が規律をもって取り組むべきことであり、日本版DBSがかえって抜け道になってしまうことも避けるべきだと思います。

そして菅田進学塾としては業界のために積極的に協力し、「塾は健全化に一生懸命だから安心」と思ってもらえるよう取り組みたいと考えています。

コロナ禍の時も、「塾は

こう対応すれば大丈夫」と全国学習塾協会にガイドラインを作ってもらえたので助かりました。ここで改めて御礼を申し上げつつ、今回も世の中から評価されるようになりたいですね。

**安藤** 近年、政府は学校と塾、双方共に素晴らしいという考えになってきました

が、「何としても塾を守るう」とまでは残念ながらもなっています。やはり自分たちで、この業界を守っていく必要もあります。

